

第 99 回大腸癌研究会リンパ節委員会 議事録

2023 年 7 月 6 日（木） 11:00～12:00

都ホテル尼崎 3F 鳳凰 中 + WEB

<出席者（敬称略）>

金光幸秀（国立がん研究センター中央病院）、神藤英二（防衛医科大学校）、小川真平（東京女子医科大学）、野澤宏彰（東京大学）、川村純一郎（近畿大学）、川合一茂（がん・感染症センター都立駒込病院）、塩澤 学（神奈川県立がんセンター）、女屋博昭（愛知県がんセンター）、三口真司（県立広島病院）、渡邊 純（横浜市立大学附属市民総合医療センター）、須藤 剛（山形県立中央病院）、大内晶（愛知県がんセンター）、片岡幸三（兵庫医科大学）、安井昌義（大阪国際がんセンター）、池田 聡（県立広島病院）、丸山 聡（新潟県立がんセンター新潟病院）、高見澤康之（事務局、国立がん研究センター中央病院）

<WEB 出席者（敬称略）>

高山裕司（自治医科大学）、小澤平太（栃木県立がんセンター）、吉田武史（久留米大学）

（以上 20 名）

<議事>

第 98 回委員会で今後検討を行う 4 つの課題が決まり、本委員会の開催前に課題ごとに小委員会（WEB）が開催された。本委員会では小委員会での検討事項やその後の進捗の報告が行われた。

(1) 課題 1 N3 分類の再定義

発表 高見澤(事務局)

事務局で管理しているデータベースの項目が共有された。各データベースに収載されている症例数や情報は多いが各データベースで年代は異なり、また共通の ID もないためデータベースの統合は困難と予想される。今後データベースを課題 1 の小委員会内で共有し、解析方法を検討する。現時点では下部直腸癌における側方リンパ節転移(N3)症例を主な解析対象としているが、結腸癌における N3 も併せて検討を行う方針。

(2) 課題 2 リンパ節転移陽性基準の検討

発表 小川委員

結腸間膜 LN、直腸間膜 LN（前治療あり）、直腸間膜 LN（前治療なし）、直腸側方 LN（前治療あり）、直腸側方 LN（前治療なし）それぞれの条件における術前リンパ節診

断に関する論文のシステマティックレビューの経過が報告された。今後は階層的サマリーROCなどの手法を用いて解析を行い、レビュー論文の作成を目指す。条件（結腸、直腸間膜、直腸側方、、、）ごとに論文作成行うかは今後メールベースで相談する。

(3) 課題3 側方リンパ節アトラスの作成

発表 渡邊委員

側方領域の定義については過去委員会でも議論されており、今までの経緯が報告された。外科医と放射線科医でも側方領域の境界の認識は異なっているとされており、規約での境界定義づけは必要と考えられる（側方郭清を過不足なく行うための範囲明示が必要）。規約への掲載案としてCT, MRI、術中写真と対比させたアトラス案が提示された。今後具体的な境界の定義づけは小委員会内で議論する方針。

(4) 課題4 副右結腸静脈周囲リンパ節の取扱いに関する検討

発表 三口委員

本課題に関しては前向き試験として情報を収集予定であり、研究の基本方針が発表された（cStage I-III 右側結腸癌を対象。ARCV 根部 1.5cm 四方の組織片を213ARCV リンパ節として提出。213ARCV リンパ節の存在頻度や転移陽性例の予後を解析）。現在研究計画書を作成中。サンプルサイズについては国立がん研究センター中央病院の統計部門と相談し決定する方針。

以上、4つの課題の進捗と今後の方針が提示された。今後も課題ごとに進めていく方針。

（文責：事務局 高見澤康之）